

9月12日 金毘羅山 Y懸

平尾 繁和

山名	金毘羅山 Y懸	山行名	例会 (秋山トレーニング)		
ルート	江文神社～Y懸取付～頭～取付～江文神社				
山行日	2020年9月12日 (土)	天候	曇りのち晴れ		
参加者	CL:平尾 SL:藤村、北條 技術顧問:佐坂 1班:平尾、木元、和田、北條、廣瀬、2班:藤村、木田、玉置、永井、原田 女性4名、男性7名/11名				
ルート概略	コースタイム				
省略	地名	時:分	地名	時:分	
	京田辺		Y懸頭	着	13:15
		発		13:25	
	江文神社	着	Y懸取付	着	13:05
		発		13:40	
	Y懸取付	着	江文神社	着	14:10
		発			
	<p>秋山にむけたトレーニング、当初の7月23日の計画が雨のため中止になったので、Y懸未経験者を中心に岩歩きのトレーニングを再度計画した。週半ばから傘マークが入り、またもや天候が懸念されたが、当日現地へ出むき岩の状況を見て、できる範囲のトレーニングをすることにし、6:50京田辺を出発。他労山のトレーニング予定も入っており場所確保が心配されたが、江文神社駐車場は空いていた。顧問から簡易ハーネスでのトレーニングとりわけ懸垂下降は危険なことの連絡を受け、会の装備品と会員から借用しハーネスを用意した。トイレを済ませ装備をチェック、顧問から説明を受ける。岩稜登攀は通常の山行と異なりその危険性がより大きいことを十分認識すること、装備品のカラビナ2枚、安全環付カラビナ1枚、スリングはなぜ必要か、どこでどういう状況で使用するのかを教わり、日常の山行でも各自携行するように指導を受けた。中間支点をとった場合や山行に持参した10mロープを繋いで使用する時には、結び目で付け替えが生じカラビナ2枚必要となるが、今回は最初の岩場にロープを設定、中間支点はとらなかつた。1班から順にフィックスし3点確保で登っていく。上までつくともまずスリングをガスヒッチで近くの木から自己ビレイをとることが安全のため必須で、そのあとプルージックを外し、メンバーを待つことを徹底した。山行部のロープ講習会(6/27)で学んだプルージックを自宅で練習しマスターしていた部員がなかまに教えてくれてよかった。初めての人には顧問が中間点で直接助言をし、手指は開かないこと、3点確保で足場を目で探すことなど細かく指導をうける。全員に登り切ると順に下り、2班と交代、各自1往復したところで12時前になり昼食とした。(予定では2往復、さらに荷を担いでの2往復を予定、意外と時間がかかった)。本番の西穂独標はこういう岩場はないとの話で、岩登りの初歩の訓練にとどめた。午後は本番を想定したザレ場歩きでY懸沢を頭へ登る。先年の台風被害の倒木で道が不明なところがあったが、頭の上に到着、集合写真を撮る。下山し頭の下で労山のメンバーが登攀訓練をしているのをしばし眺めてから沢を下った。今後事前の座学で装備の意義などの共有や、今回はしなかつた懸垂下降でのオートブロックシステム(例:バッチマン)や中間支点でのフリクションノットの付け替えなどの指導を受ける機会もできればよいと思った。</p>				
ヒヤリハット なし					



## 感 想

藤村 敏幸

○Y懸の壁が少し濡れ足場を確保しても滑り皆さん苦勞されていました。7月のY懸トレの時も同じような状態でした。それよりもガレ場歩きの訓練は実践向きで、今後は膝やストックの使い方の説明書を見ながら登り降りするのもよいのではと思いました。